第３学年	**算数科**
単元名	**大きい数のしくみ**
単元の目標	**万や億、兆の単位について知り、十進位取り記数法や４桁区切りによる命数法を基に、大きな数の読み方や計算の仕方を考えるとともに、整数の表し方について数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。**
着眼点	**数のまとまり（十進法の考え）や位（位取りの考え）**

小単元	**数の表し方**						**１０倍した数と１０でわった数**		**まとめ**	
	１（本時）※一部挿入	**２　※一部挿入**	**３　※一部挿入**	**４　※一部挿入**	**５　※一部挿入**	**６**	**７**	**８　※一部挿入**	**９（★裁量）**	**１０**
学習形態	一斉	一斉（個別）	一斉	個別	個別	一斉	一斉	個別	一斉	個別
めあて	大きい数の表し方について考えよう。	大きい数の表し方について考えよう。	大きい数の表し方について考えよう。	数直線で、大きい数の表し方について考えよう。	等号や不等号で、大きい数の表し方について考えよう。	大きい数をいろいろな形で表そう。	大きい数を１０倍したり、１０でわったりしよう。	大きい数を100倍したり、1000倍したりしよう。	大きい数のクイズをしよう！	単元をふり返ろう。
本時の流れ	①既習事項を振り返る。 ②新しい概念に出会い、既習事項と関連付けることで、数の仕組みについて考える。 ・「一・十・百・千」が繰り返されているね。 →位取りの考え、統合的な捉え ・「千」「万」「億」「兆」と続くよ。 →発展的な捉え ・〇を１０こ集めると△になるよ。 →十進法の考え ③数の読み方や書き方、数の構成について理解する。	①着眼点を踏まえ、前時の振り返りをする。 ②問題演習をする。 ※習熟度コースによっては、子供自身で問題を選び取り組むことができるようにする	①課題確認をする。 ②数のまとまりを意識しながら、自力解決をする。 ③基にする数を変えて、発展的に考える。	①課題確認をする。 ②用語「数直線」について確認する。 ③【個別】で課題に取り組む。 〇課題：大きい数を数直線上に表そう。 A：１めもりが「１千万」のもの B：１めもりが「１千億」のもの 〇方法：教科書、２年生のときの教科書 〇形態：一人で、友だちと	①課題確認をする。 ②用語「等号」「不等号」について確認する。 ③【個別】で課題に取り組む。 〇課題：大きい数を等号や不等号で表そう。 A：等号や不等号のみを考える B：等号や不等号のみではなく、大小関係も踏まえて数字も考える 〇方法：教科書、２年生のときの教科書 〇形態：一人で、友だちと	①大きい数を多面的に捉えてきたことを振り返る（数の構成、相対的な大きさ、数直線）。 ②ある大きい数を、どのような見方で数を表すのかを、自力解決する。 ③友達と交流する。 ④発展的に考える（より～な数でも同じように考えられるか等）。	①大きい数を１０倍した数について考える。 ②大きい数を１０でわった数について考える。 ③もとの数から１０倍したり、１０でわったりした数を関係図にしてまとめる。	①前時の振り返りをする。 ②課題確認をする。 ③【個別】で課題に取り組む。 〇課題：大きい数を100倍したり、1000倍した数を考える。 〇方法：教科書 〇形態：一人で、友だちと	①これまでの学びを振り返る。 ②先生が考えたクイズに答える。 ※着眼点を意識させるためのクイズとする。 ③大きい数のクイズを自分で作成する。 （例）百万を３こ、十万を９こ、千を３こ、十を２こ集めた数は何？、百万を４こ集めた数を１０倍した数は何？ ④友達にクイズを出したり、友達のクイズを解いたりする。	①教科書の「たしかめよう」に取り組む。 ②自分に合った方法や内容の復習問題や発展問題に取り組む。
学習のふりかえり	・学んだことを振り返る。	・前時の学習とのつながりを意識し、学んだことを振り返る。	・学んだことを振り返る。	・できたこと、学び方を振り返る。	・できたこと、学び方を振り返る。	・学んだことを振り返る。	・学んだことを振り返る。	・できたこと、学び方を振り返る。	・学んだことを振り返る。	・単元で学んだことを振り返る。
手立て・支援のポイント	・統合的に考えることができるよう、既習事項（１万までの数）と未習事項（兆までの数）を扱うときには、同じ材を活用する。 ・数のまとまり（十進法）や位取りを意識することができるように、「１が１０こ集まると１０」で、「十の位に"１"」と書いたり、具体物を提示したりする。 ・具体物や半具体物と記数法を往還しながら、数が大きくなっても理解できるようにする。	・単元をとおした中心概念となる、数のまとまりや位取りを意識できるように前時の振り返りをする。	・統合的に考えることができるよう、既習事項（１万までの数）の数の相対的な大きさについて振り返る。 ・基にする数によって、数の表し方が変わることに気付くことができるよう、具体物や半具体物を活用する（筆算の繰り上げ、繰り下げと同じように、数のまとまりを意識させる）。	・課題選択をするときには、１めもりが小さい数のものから取り組みように促す。 ・数を数直線で表すときに、１めもりを意識することができるように声を掛ける。	・課題選択をするときには、等号や不等号のみを考えるものから取り組みように促す。 ・等号や不等号が十分理解できていない子には、具体的に例示をすることで、相等関係や大小関係を表すものであることに気付かせる。	・１つの数でも多面的な見方ができることに気付くことができるよう、自力解決のときには、積極的に声掛けをし、自分の考えを複数もてるようにする。 ・発展的に考えることができるよう、子供たちへの声掛けを工夫する。	・位が上がったり下がったりすることをイメージできるように、具体物を活用する。 ・１０倍と１０進法を関連付けて考えさせる（着眼点を意識させる）ことで、「１０が２つのもの→１０が２０つになる→１００が２つになる」という考えになるように丁寧に説明をする。	・１０倍したときの考え方から発展的に考えることができるようにする。 ・考えるときには、式だけではなく、図や言葉で表現できるように声掛けをする。また、場合によっては具体物で考えることができるようにする。 ・より発展的に考えることができるよう、億や兆でも同様なことが言えることに気付くことができるよう、声掛けをする。	・先生が考えたクイズを先にやることで、着眼点を意識した作問となるようにする。 ・これまで学んだ大きい数の表し方のポイントを式や図、言葉で示したものを必要に応じて提示し、クイズを作ることができるようにする。	・単元の着眼点を意識した振り返りとなるように、振り返りでの問い方を工夫する。 ・単元の着眼点を意識して解けているかをみとるために、必要に応じて問題を追加する。
評価・見取りの場面	【思】大きい数を既習事項と関連付けられることに着目し、数の仕組みを説明している。（発言、ノート）	【知】大きい数を読んだり、書いたりしている。（観察、ノート）	【思】大きい数の相対的な大きさについて考え、説明している。（発言、ノート）	【知】大きい数の大小や順序を理解し、数直線上に表している。（観察、ノート）	【知】大きい数や式の相等関係や大小関係を理解している。（観察、ノート）	【思】大きい数を多様な見方について考え、表現している。（発言、観察、ノート）	【知】大きい数を１０倍した数や１０でわった数は、もとの数の位を１つ上げたり、下げたりした数になることを理解している。（発言、ノート）	【思】大きい数を100倍した数や1000倍した数の表し方を考え、説明している。（観察、ノート）	【主】数の仕組みや表し方について振り返り、多面的に捉え、クイズを作問している。（観察、成果物）	【知】大きい数の読み方や計算の仕方、表し方について理解している。（観察、ノート）